

U.S. Indicators

発表日: 2019年1月3日(木)

米国 19 年 1 月 ISM 製造業景気指数は再上昇

～米製造業は国内需要に支えられ堅調～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

ISM製造業景気指数の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
18/01	59.6	65.2	65.5	55.2	52.3	59.8	56.2	72.7	59.8	58.4
18/02	60.7	64.3	62.0	59.2	56.7	61.1	59.8	74.2	62.8	60.5
18/03	59.3	62.4	61.2	57.0	55.5	60.7	59.8	78.1	58.7	59.7
18/04	57.9	61.7	58.6	55.2	52.9	61.1	62.0	79.3	57.7	57.8
18/05	58.7	62.9	61.5	56.7	50.2	62.1	63.5	79.5	55.6	54.1
18/06	60.0	63.0	62.0	56.4	50.8	67.6	60.1	76.8	56.3	59.0
18/07	58.4	60.8	59.1	56.8	53.3	62.1	54.7	73.2	55.3	54.7
18/08	60.8	64.5	62.4	57.8	55.4	63.9	57.5	72.1	55.2	53.9
18/09	59.5	61.5	63.1	58.2	53.3	61.6	55.7	66.9	56.0	54.5
18/10	57.5	58.0	59.3	56.5	50.7	63.2	55.8	71.6	52.2	54.3
18/11	58.8	61.8	59.9	57.7	52.9	61.5	56.4	60.7	52.2	53.6
18/12	54.3	51.3	54.1	56.0	51.2	59.0	50.0	54.9	52.8	52.7
19/01	56.6	58.2	60.5	55.5	52.8	56.2	50.3	49.6	51.8	53.8

(出所) ISM: the Institute for Supply Management

19年1月のISM製造業景気指数(季節調整値)は、56.6と市場予想の54.0への低下に反して前月比2.3%ポイント上昇した(筆者予想55.3)。米製造業は、米中貿易戦争の継続、米政府機関の一部閉鎖など政治の混乱、世界経済の減速にもかかわらず、堅調さを維持している。主要国・地域の製造業活動の鈍化を受け米輸出受注DIは51.8まで低下しているが、堅調な国内需要に支えられ米国製造業景気指数が56.6、新規受注が58.2、生産が60.5と高い水準を維持している。

ISM製造業景気指数が製造業の拡大縮小の分岐点である50を依然上回っているうえ、ISMによると56.6という水準はこれまでのGDPとの関係から、実質GDPが4.0%成長していることを示していると指摘している。このように、依然米経済は過熱感の強い状態にある。

総合指数を構成する項目をみると、新規受注、生産、雇用、在庫、入荷遅延は拡大縮小の分岐点である50を上回っている。重要項目である新規受注、生産が上昇し高い水準となったほか、人手不足、貿易戦争等の影響により、雇用や入荷遅延も高水準で推移している。構成項目別の総合指数への寄与度をみると、入荷遅延(前月比▲0.56%p)、雇用(前月比▲0.10%p)が押し下げ寄与となった一方、新規受注(前月比+1.38%p)、生産(前月比+1.28%p)、在庫(前月比+0.32%p)が押し上げ寄与となった。

インフレ面では、ドル高やエネルギー価格の下落を受け仕入価格は前月から大幅に低下し、50を下回っており、川上では価格下落に転じた。

総合(全18業種、下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す)で拡大した業種は、繊維、コンピューター・電子機器、プラスチック・ゴム、その他製造業、家具・同関連、印刷・関連サポート活動、一次金属、化学製品、輸送機器、一般機械、加工金属、石油・石炭、食品・飲料・タバコ、電気設

備・部品の14業種と前月の11業種から増加した。一方、縮小した業種は、非鉄の1業種と前月の6業種から大幅に減少した。紙製品、アパレル、木材製品は前月から変わらずとなった。

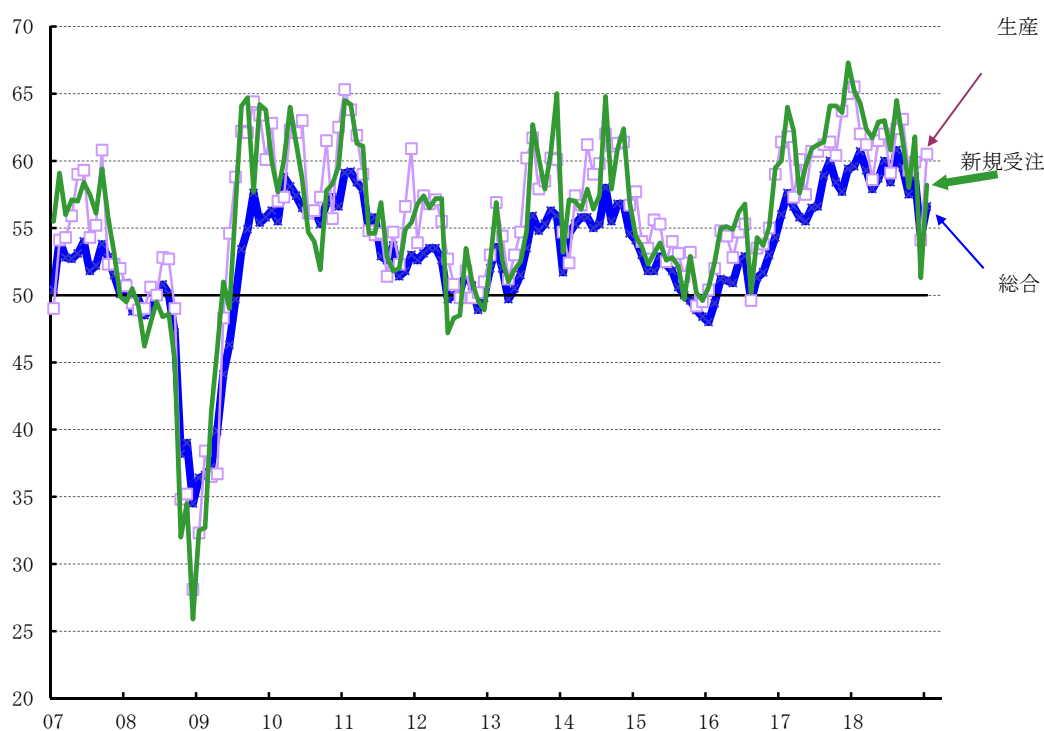
企業からの報告では、前月と異なり、米中貿易戦争などの悪影響・懸念への指摘がほとんどみられなかった。輸送機器、一般機械、その他製造業、加工金属などが事業の良好さを指摘した。コンピューター・電子機器でも、供給や生産の安定が報告された。一方、紙は減速、家具は減速の兆しを報告した。なお、化学製品では、原油価格下落への懸念が指摘された。また、政府機関の一部閉鎖に関しては、食品・飲料・タバコで新製品の承認に遅れがでていることだけ報告された。

19年は、貿易戦争の継続、人手不足の一段の強まり等によるコストの上昇、EUや日本との通商交渉の不透明感、中国経済の構造変化に伴う中期的な成長鈍化、海外需要の拡大モメンタムのピークアウトなど、需要の伸びを抑制する要因が残存すると予想される。このような中、米国では減税や歳出の拡大を背景に、雇用・所得・保有資産残高の増加等による個人消費の拡大が見込まれ、米景気は19年半ばにかけて堅調さを維持すると想定される。ただし、19年後半には、政策効果の弱まり、ドル高、金融環境の引き締め等の影響で減速すると予想される。

このため、19年のISM製造業景気指数は、米景気の堅調さを示す比較的高い水準から、徐々に低下すると予想される。

(%)

(図表) ISM製造業景気指数の推移



(出所) ISMデータより作成

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

